

四半期報告書

(第14期第3四半期)

自 平成21年7月1日

至 平成21年9月30日

日本ベリサイン株式会社

東京都中央区八重洲二丁目8番1号

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
3 関係会社の状況	3
4 従業員の状況	3
第2 事業の状況	4
1 生産、受注及び販売の状況	4
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態及び経営成績の分析	5
第3 設備の状況	7
第4 提出会社の状況	8
1 株式等の状況	8
(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	9
(3) ライツプランの内容	17
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	17
(5) 大株主の状況	17
(6) 議決権の状況	17
2 株価の推移	17
3 役員の状況	17
第5 経理の状況	18
1 四半期連結財務諸表	19
(1) 四半期連結貸借対照表	19
(2) 四半期連結損益計算書	21
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	23
2 その他	32
第二部 提出会社の保証会社等の情報	33
[四半期レビュー報告書]	34

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年11月13日
【四半期会計期間】	第14期第3四半期（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）
【会社名】	日本ベリサイン株式会社
【英訳名】	VeriSign Japan K.K.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼最高経営責任者 古市 克典
【本店の所在の場所】	東京都中央区八重洲二丁目8番1号
【電話番号】	03-3271-7011（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長兼最高財務責任者 西 康宏
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八重洲二丁目8番1号
【電話番号】	03-3271-7011（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役副社長兼最高財務責任者 西 康宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第3四半期連結 累計期間	第14期 第3四半期連結 会計期間	第13期
会計期間	自平成21年 1月1日 至平成21年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成20年 1月1日 至平成20年 12月31日
売上高（千円）	6,032,802	1,935,403	8,380,995
経常利益（千円）	1,501,791	458,944	2,042,926
四半期（当期）純利益（△損失） （千円）	△157,305	△689,805	936,493
純資産額（千円）	—	9,757,461	10,079,024
総資産額（千円）	—	13,734,009	14,344,659
1株当たり純資産額（円）	—	21,456.38	22,163.49
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（△損失）（円）	△345.91	△1,516.86	2,060.01
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）注3	—	—	2,058.65
自己資本比率（%）	—	71.0	70.3
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	1,157,154	—	1,948,923
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△112,802	—	△591,279
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△163,730	—	△144,181
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	8,981,391	8,100,578
従業員数（人）	—	257	241

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第14期第3四半期連結累計（会計）期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期（当期）純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	257	[67]
---------	-----	------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は [] 内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	188	[62]
---------	-----	------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は [] 内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しています。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループの生産業務の内容は、電子証明書発行サービス及びコンサルティングサービスといったサービス業務であることから、生産実績は販売実績と同一の内容となるため、生産実績の記載を省略しております。

(2) 受注実績

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	
	受注高 (千円)	受注残高 (千円)
セキュリティ・サービス事業	1,444,096	4,514,476
SSLサーバ証明書サービス	1,153,030	2,934,810
クライアント認証サービス	238,301	1,468,273
その他サービス	52,764	111,392
ITサービス・マネジメント事業	89,776	94,155
合計	1,533,873	4,608,632

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
	販売高 (千円)
セキュリティ・サービス事業	1,817,209
SSLサーバ証明書サービス	1,325,001
クライアント認証サービス	428,418
その他サービス	63,789
ITサービス・マネジメント事業	118,193
合計	1,935,403

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 総販売実績に対する販売割合が10%以上の相手先はありません。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、昨年秋以降の世界的な金融危機に端を発した需要の低迷と景気の悪化に、底打ちの兆しが見られるものの、企業の設備投資の姿勢は製造業、非製造業を問わず、依然として慎重であり、新規投資の抑制も長期化する傾向にあるなど、景気の先行き不透明感はなお強く、引き続き厳しい状況が続いております。

当社グループの事業分野であるネットワーク・セキュリティ市場におきましては、ネットバンキングにおける不正引出し被害の急増やフィッシングサイト数の増大等により、インターネットセキュリティに対する需要は高まるものの、昨今の景気の不透明感と、企業の慎重な投資姿勢の影響を大きく受けています。このような状況下におきまして、当社グループは、電子認証を核とする様々なサービスの提供を通じて、企業や個人が安心かつ安全にコミュニケーションが行えるインターネット社会の発展に努めてまいりました。

当第3四半期連結会計期間における連結業績は、売上高1,935百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益454百万円（同2.5%減）、経常利益458百万円（同5.2%減）、「のれん」の減損損失962百万円を特別損失として計上したため、当四半期純損失689百万円となりました。これは当第3四半期連結会計期間においてサイトロック株式会社の業績と今後の見通しを勘案し、第三者による企業価値評価の結果を踏まえた上で、特別損失を計上したためです。

事業別の概況は以下のとおりです。

セキュリティ・サービス事業のうち、中核となるSSLサーバ証明書サービスの売上高は、前年同期の1,355百万円から1,325百万円（前年同期比2.3%減）となりましたが、足元では、従来のSSLサーバ証明書よりも認証強度の高い「EV（Extended Validation）SSL証明書」の採用が、金融機関のみならず他業界にも拡大し、エンドユーザーにも浸透しつつあります。代理店販売については、新規販売代理店が増加する一方、既存の販売代理店からのセールスに注力しております。GeoTrustブランドによる低価格帯、簡易認証サーバ証明書の発行につきましては、引き続き新規の販売代理店が増え、販売体制が拡充しております。

クライアント認証サービスの売上高は前年同期の451百万円から428百万円（前年同期比5.1%減）となりました。クライアント証明書の発行アウトソーシングサービス「マネージドPKIサービス」（MPKI）については、金融機関のニーズは堅調で、インターネットバンキングサービスにおいて利用ユーザー層が拡大するなど、証明書発行のニーズは底堅いものの、昨今の経済環境から企業のIT投資への慎重な姿勢や、投資の見送りなどが影響しました。新しい取り組みとして、OpenID技術をベースとした高度認証サービスの提供や、流通BMS向け電子証明書発行サービスを開始しております。

その他サービスの売上高は、前年同期の93百万円から63百万円（前年同期比31.4%減）となりました。これはセキュリティコンサルティング事業を縮小したためです。

当社の子会社であるサイトロック株式会社が提供するITサービス・マネジメント事業について、売上高は、前年同期の133百万円から118百万円（前年同期比11.7%減）となりました。

※前年同期の金額および前年同期増減率は参考として記載しています。

(2) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、第2四半期連結会計期間末に比べ181百万円増加して8,981百万円となっております。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローは以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは197百万円の増加となっております。これは主に、減価償却費96百万円、のれん償却額21百万円、減損損失で962百万円の増加による一方、税金等調整前四半期純損失502百万円、未払費用の減少額63百万円、前受金の減少額15百万円、法人税等の支払額376百万円による減少があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローの減少は14百万円となっております。これは主に、無形固定資産の取得による支出29百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローの減少は1百万円となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,738,656
計	1,738,656

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成21年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	454,758	454,790	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用していません。
計	454,758	454,790	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成21年11月1日からこの四半期報告書提出日までに、旧商法第280条ノ19の規定に基づく新株引受権、並びに旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

①平成14年11月15日開催の臨時株主総会決議及び同日開催の取締役会決議による旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づく新株予約権（第1回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	4(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	64(注)1、2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	30,000(注)3
新株予約権の行使期間	平成16年11月18日から 平成21年11月17日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 30,000(注)2 資本組入額 15,000(注)2
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割、権利の行使又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

(株式の分割・併合の場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(時価を下回る価額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

(1) 平成16年11月18日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成18年11月18日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。

(2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。

(3) その他細目については、平成14年11月15日開催の臨時株主総会決議及び同日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

②平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年4月16日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第2回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	272(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	544(注)1、2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	293,500(注)3
新株予約権の行使期間	平成18年4月19日から 平成23年4月18日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 293,500 資本組入額 146,750
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割、権利の行使又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

(株式の分割・併合の場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(時価を下回る価額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成18年4月19日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成20年4月19日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年4月16日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

③平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年7月21日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第3回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	1(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	2(注)1,2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	586,000(注)3
新株予約権の行使期間	平成18年7月21日から 平成23年7月20日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 586,000 資本組入額 293,000
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

(株式の分割・併合の場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(時価を下回る価額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成18年7月21日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成20年7月21日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年7月21日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

④平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年10月19日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第4回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	11(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	22(注)1、2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	505,995(注)3
新株予約権の行使期間	平成18年10月19日から 平成23年10月18日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 505,995 資本組入額 252,998
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

(株式の分割・併合の場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(時価を下回る価額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成18年10月19日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成20年10月19日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成16年10月19日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

⑤平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成17年1月27日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第5回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数（個）	10（注）1
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	20（注）1、2
新株予約権の行使時の払込金額（円）	520,000（注）3
新株予約権の行使期間	平成19年1月27日から 平成24年1月26日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 520,000 資本組入額 260,000
新株予約権の行使の条件	（注）4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

（注）1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

（株式の分割・併合の場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

（時価を下回る価額で新株を発行する場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成19年1月27日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成21年1月27日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成17年1月27日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

⑥平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成17年2月25日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第6回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数(個)	37(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	74(注)1, 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	534,063(注)3
新株予約権の行使期間	平成19年2月25日から 平成24年2月24日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 534,063 資本組入額 267,032
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、株式分割又は退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

(株式の分割・併合の場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

(時価を下回る価額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成19年2月25日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成21年2月25日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成16年3月26日開催の第8回定時株主総会決議及び平成17年2月25日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

⑦平成17年3月25日開催の第9回定時株主総会決議及び平成17年9月16日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第7回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数（個）	14（注）1
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	14（注）1, 2
新株予約権の行使時の払込金額（円）	375,123（注）3
新株予約権の行使期間	平成19年9月16日から 平成24年9月15日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 375,123 資本組入額 187,562
新株予約権の行使の条件	（注）4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

（注）1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

（株式の分割・併合の場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

（時価を下回る価額で新株を発行する場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成19年9月16日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成21年9月16日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社の取締役、監査役又は従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成17年3月25日開催の第9回定時株主総会決議及び平成17年9月16日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

⑧平成17年3月25日開催の第9回定時株主総会及び平成18年1月26日開催の取締役会決議による旧商法第280条の20および第280条の21の規定に基づく新株予約権（第8回新株予約権）

区分	第3四半期会計期間末現在 (平成21年9月30日)
新株予約権の数（個）	299（注）1
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	299（注）1, 2
新株予約権の行使時の払込金額（円）	400,492（注）3
新株予約権の行使期間	平成20年2月3日から 平成25年2月2日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 400,492 資本組入額 200,246
新株予約権の行使の条件	（注）4
新株予約権の譲渡に関する事項	被付与者は、新株予約権を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

（注）1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、決議された数から、退職による権利失効後の調整した数を記載しております。

2. 新株予約権の目的となる株式の数の株式分割または株式併合による調整

<付与株式数の調整式>

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権の行使時の払込金額の株式分割または株式併合等による調整

当社が株式の分割または併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整する。なお、かかる調整は、その時点で対象者が新株引受権を行使していない目的たる株式数についてのみ行われるものとし、調整により生ずる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

<発行価額の調整式>

（株式の分割・併合の場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

（時価を下回る価額で新株を発行する場合）

$$\text{調整後発行価額} = \text{調整前発行価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 新株予約権の行使の条件

- (1) 平成20年2月3日に付与株式数の50%を、その後3ヶ月経過する毎に付与株式数の6.25%を順次追加して行使可能とし、平成22年2月3日より100%行使可能とする。この場合、新株予約権の行使により1株未満の端数が生じるときは、端数はその3ヶ月経過後以後、整数となった段階で行使可能とする。
- (2) 被付与者は、新株予約権行使時においても当社又は当社子会社の取締役、監査役または従業員であることを要す。ただし、当社と被付与者との間で締結するストック・オプション契約に定める一定の要件を充足した場合に限り、当社又は当社子会社の取締役、監査役または従業員たる地位を失った場合も引き続き、その権利の全部又は一部を行使することができるものとする。
- (3) その他細目については、平成17年3月25日開催の第9回定時株主総会決議及び平成18年1月26日開催の取締役会決議に基づき、当社と被付与者との間で締結したストック・オプション契約の定めによるものとする。

- (3) 【ライツプランの内容】
該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成21年7月1日～平成21年9月30日	—	454,758	—	4,035,376	—	4,942,973

(注) 平成21年10月1日から平成21年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が32株、資本金及び資本準備金がそれぞれ480千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成21年6月30日)に基づく株主名簿による記載としております。

① 【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 454,758	454,758	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	454,758	—	—
総株主の議決権	—	454,758	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	29,990	29,170	25,700	34,000	37,550	47,500	49,800	44,050	45,200
最低(円)	24,000	22,610	21,160	24,780	28,200	38,600	35,600	40,200	35,600

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
監査役		ロビン D・シスコ	平成21年5月29日

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,981,355	8,100,578
受取手形及び売掛金	199,442	270,764
有価証券	1,000,036	—
貯蔵品	66,325	65,827
繰延税金資産	1,372,629	1,469,321
その他	461,965	401,348
貸倒引当金	△12,533	△20,455
流動資産合計	11,069,220	10,287,384
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	286,559	311,676
工具、器具及び備品（純額）	457,849	525,398
建設仮勘定	8,285	83,124
有形固定資産合計	※ 752,694	※ 920,199
無形固定資産		
電話加入権	3,067	3,067
ソフトウェア	390,036	475,579
商標権	3,294	3,711
のれん	383,378	1,409,370
無形固定資産合計	779,777	1,891,728
投資その他の資産		
投資有価証券	30,300	23,550
差入保証金	290,421	314,523
長期前払費用	805,402	898,118
繰延税金資産	5,194	8,155
その他	1,000	1,000
投資その他の資産合計	1,132,318	1,245,346
固定資産合計	2,664,789	4,057,275
資産合計	13,734,009	14,344,659

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,629	126,668
未払金	274,981	417,790
前受金	3,192,993	3,284,640
未払法人税等	188,340	193,062
賞与引当金	68,910	105,934
その他	201,692	137,539
流動負債合計	3,976,547	4,265,634
負債合計	3,976,547	4,265,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,035,376	4,035,376
資本剰余金	4,942,973	4,942,973
利益剰余金	775,108	1,100,674
株主資本合計	9,753,458	10,079,024
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,003	—
評価・換算差額等合計	4,003	—
純資産合計	9,757,461	10,079,024
負債純資産合計	13,734,009	14,344,659

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)
売上高	6,032,802
売上原価	2,000,173
売上総利益	4,032,628
販売費及び一般管理費	*1 2,554,085
営業利益	1,478,542
営業外収益	
受取利息	22,041
為替差益	141
雑収入	1,134
営業外収益合計	23,317
営業外費用	
雑損失	69
営業外費用合計	69
経常利益	1,501,791
特別利益	
前期損益修正益	170
投資有価証券売却益	1,082
特別利益合計	1,252
特別損失	
前期損益修正損	710
固定資産譲渡損	56,225
減損損失	*2 962,991
特別損失合計	1,019,927
税金等調整前四半期純利益	483,116
法人税、住民税及び事業税	543,516
法人税等調整額	96,906
法人税等合計	640,422
四半期純損失(△)	△157,305

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

		当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
売上高		1,935,403
売上原価		646,547
売上総利益		1,288,855
販売費及び一般管理費	※1	834,111
営業利益		454,743
営業外収益		
受取利息		5,191
雑収入		110
営業外収益合計		5,302
営業外費用		
為替差損		1,102
営業外費用合計		1,102
経常利益		458,944
特別利益		
投資有価証券売却益		1,082
特別利益合計		1,082
特別損失		
減損損失	※2	962,991
特別損失合計		962,991
税金等調整前四半期純損失(△)		△502,965
法人税、住民税及び事業税		59,252
法人税等調整額		127,587
法人税等合計		186,839
四半期純損失(△)		△689,805

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成21年1月1日
 至 平成21年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益	483,116
減価償却費	283,681
減損損失	962,991
のれん償却額	63,000
無形固定資産償却費	417
固定資産譲渡損益(△は益)	56,225
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,082
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7,922
賞与引当金の増減額(△は減少)	△37,023
受取利息及び受取配当金	△22,041
為替差損益(△は益)	△191
売上債権の増減額(△は増加)	70,968
貯蔵品の増減額(△は増加)	△498
前払費用の増減額(△は増加)	△61,830
長期前払費用の増減額(△は増加)	92,716
その他の資産の増減額(△は増加)	△9,712
仕入債務の増減額(△は減少)	△77,038
未払金の増減額(△は減少)	△96,211
未払費用の増減額(△は減少)	7,966
未払消費税等の増減額(△は減少)	55,110
前受金の増減額(△は減少)	△91,646
その他の負債の増減額(△は減少)	17,779
小計	1,688,774
利息及び配当金の受取額	23,344
法人税等の支払額	△554,965
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,157,154

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△49,388
無形固定資産の取得による支出	△88,598
投資有価証券の売却による収入	1,082
敷金及び保証金の回収による収入	24,101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△112,802

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額	△163,730
財務活動によるキャッシュ・フロー	△163,730

現金及び現金同等物に係る換算差額

現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	880,812
現金及び現金同等物の期首残高	8,100,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 8,981,391

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用</p> <p>従来、貯蔵品の評価は主として移動平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく薄価切下げの方法)により算定しております。</p> <p>なお、これによる影響額は軽微であります。</p> <p>(2) リース取引に関する会計基準の適用</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>なお、これによる影響額は軽微であります。</p>

【簡便な会計処理】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年12月31日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額は、1,235,841千円 であります。	※ 有形固定資産の減価償却累計額は、1,092,223千円 であります。

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)																														
<p>※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">役員報酬</td> <td style="text-align: right;">71,306</td> <td style="text-align: right;">千円</td> </tr> <tr> <td>給与手当</td> <td style="text-align: right;">942,686</td> <td></td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">115,371</td> <td></td> </tr> <tr> <td>広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">132,886</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支払報酬</td> <td style="text-align: right;">146,277</td> <td></td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td style="text-align: right;">186,759</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">136,293</td> <td></td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入</td> <td style="text-align: right;">2,952</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ライセンス料</td> <td style="text-align: right;">180,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>のれん償却額</td> <td style="text-align: right;">63,000</td> <td></td> </tr> </table>	役員報酬	71,306	千円	給与手当	942,686		賞与引当金繰入額	115,371		広告宣伝費	132,886		支払報酬	146,277		賃借料	186,759		減価償却費	136,293		貸倒引当金繰入	2,952		ライセンス料	180,000		のれん償却額	63,000	
役員報酬	71,306	千円																												
給与手当	942,686																													
賞与引当金繰入額	115,371																													
広告宣伝費	132,886																													
支払報酬	146,277																													
賃借料	186,759																													
減価償却費	136,293																													
貸倒引当金繰入	2,952																													
ライセンス料	180,000																													
のれん償却額	63,000																													
<p>※2. 当第3四半期連結累計期間において、当社は以下の資産について減損損失を計上しました。</p> <p>(1) 減損損失を認識した資産の概要</p> <p style="margin-left: 20px;">用途 : ITサービス・マネジメント事業</p> <p style="margin-left: 20px;">種類 : のれん</p> <p style="margin-left: 20px;">場所 : 神奈川県川崎市</p> <p>(2) 減損損失を認識するに至った経緯</p> <p style="margin-left: 20px;">連結子会社サイトロック株式会社について、昨年秋の金融危機に端を発する景気後退の影響及び価格競争が想定以上に進展したことから、従来の事業計画に沿って事業拡大を図ることが難しいと判断し、当第3四半期連結累計期間においてのれんを回収可能額まで減額し、減損損失を認識しております。</p> <p>(3) 減損損失の金額</p> <p style="margin-left: 20px;">962,911 千円</p> <p>(4) 資産のグルーピングの方法</p> <p style="margin-left: 20px;">減損会計の摘要にあたって事業のセグメントを基準に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位によって資産のグルーピングを行っております。</p>																														

(5) 回収可能額の算定方法

当第3四半期連結累計期間の減損損失の測定につきましては、第三者機関による継続支配を前提とした企業価値評価を参考に割引キャッシュ・フロー（DCF）方式にて算定しております。

当第3四半期連結会計期間
（自 平成21年7月1日
至 平成21年9月30日）

※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

役員報酬	28,805	千円
給与手当	315,637	
賞与引当金繰入額	45,314	
広告宣伝費	40,560	
支払報酬	48,098	
賃借料	61,935	
減価償却費	47,576	
貸倒引当金繰入	159	
ライセンス料	60,000	
のれん償却額	21,000	

※2. 当第3四半期連結会計期間において、当社は以下の資産について減損損失を計上しました。

(1) 減損損失を認識した資産の概要

用途 : ITサービス・マネジメント事業
種類 : のれん
場所 : 神奈川県川崎市

(2) 減損損失を認識するに至った経緯

連結子会社サイトロック株式会社について、昨年秋の金融危機に端を発する景気後退の影響及び価格競争が想定以上に進展したことから、従来の事業計画に沿って事業拡大を図ることが難しいと判断し、当第3四半期連結会計期間においてのれんを回収可能額まで減額し、減損損失を認識しております。

(3) 減損損失の金額

921,991 千円

(4) 資産のグルーピングの方法

減損会計の摘要にあたって事業のセグメントを基準に概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5) 回収可能額の算定方法

当第3四半期連結会計期間の減損損失の測定につきましては、第三者機関による継続支配を前提とした企業価値評価を参考に割引キャッシュ・フロー（DCF）方式にて算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	
※	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在)
現金及び預金	7,981,355 千円
有価証券 (MMF)	1,000,036
現金及び現金同等物	<u>8,981,391</u>

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 454,758株

2. 自己株式の種類及び株式数

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年3月26日 定時株主総会	普通株式	168	370	平成20年12月31日	平成21年3月27日	利益剰余金

5. 株主資本の著しい変更に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）

	セキュリティ・サービス事業 (千円)	ITサービス・マネジメント事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,817,209	118,193	1,935,403	—	1,935,403
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6,709	18,843	25,553	△ 25,553	—
計	1,823,919	137,037	1,960,956	△ 25,553	1,935,403
営業利益 (△営業損失)	475,083	△ 33,177	441,906	12,837	454,743

(注) 1. 事業区分の方法

サービスの系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業区分に属する主な事業内容 (サービス)

事業区分	主な事業内容 (サービス)
セキュリティ・サービス事業	<p>主にSSLサーバ認証サービス、クライアント認証サービス、その他サービスから構成されています。SSLサーバサービスは、インターネット上で活動する顧客企業の実在性証明と、サーバとブラウザ間の暗号化通信を実現するためのサーバIDの発行サービスを提供しております。クライアント認証サービスは、電子証明書の発行及び管理業務を当社が代行するマネージドPKIサービス（電子認証局業務のアウトソーシングサービス）等を提供しております。その他サービスは、主にドメインネームの登録及び管理サービスを提供しております。</p> <p>また連結子会社の日本ジオトラスト株式会社を通じて、中小企業・個人事業主を主な対象とし、簡易な認証による低価格のサーバ証明書発行サービスを提供しています。</p>
ITサービス・マネジメント事業	<p>当社の連結子会社であるサイトロック株式会社が提供しています。24時間365日のリモートオペレーションセンターをベースにネットワークやシステムの運用監視、障害対応、運用代行等のアウトソーシングサービスを提供しています。</p>

当第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日 至平成21年9月30日）

	セキュリティ・サービス事業 (千円)	ITサービス・マネジメント事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,652,036	380,765	6,032,802	—	6,032,802
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	17,960	56,777	74,737	△ 74,737	—
計	5,669,997	437,542	6,107,539	△ 74,373	6,032,802
営業利益（△営業損失）	1,520,448	△ 80,416	1,440,031	38,511	1,478,542

(注) 1. 事業区分の方法

サービスの系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業区分に属する主な事業内容（サービス）

事業区分	主な事業内容（サービス）
セキュリティ・サービス事業	主にSSLサーバ認証サービス、クライアント認証サービス、その他サービスから構成されています。SSLサーバサービスは、インターネット上で活動する顧客企業の実在性証明と、サーバとブラウザ間の暗号化通信を実現するためのサーバIDの発行サービスを提供しております。クライアント認証サービスは、電子証明書の発行及び管理業務を当社が代行するマネージドPKIサービス（電子認証局業務のアウトソーシングサービス）等を提供しております。その他サービスは、主にドメインネームの登録及び管理サービスを提供しております。 また連結子会社の日本ジオトラスト株式会社を通じて、中小企業・個人事業主を主な対象とし、簡易な認証による低価格のサーバ証明書発行サービスを提供しています。
ITサービス・マネジメント事業	当社の連結子会社であるサイトロック株式会社が提供しています。24時間365日のリモートオペレーションセンターをベースにネットワークやシステムの運用監視、障害対応、運用代行等のアウトソーシングサービスを提供しています。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日 至平成21年9月30日）

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年1月1日 至平成21年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

当社グループの事業の運営上、四半期連結財務諸表に与える影響が軽微で、かつ、四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

当社グループは、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年12月31日)
1株当たり純資産額 21,456.38円	1株当たり純資産額 22,163.49円

2. 1株当たり四半期純損失金額

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額 345.91円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 1,516.86円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
四半期純損失(百万円)	157,305	689,805
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	157,305	689,805
期中平均株式数(千株)	454	454

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
<p>(自己株式の取得)</p> <p>当社は、平成21年11月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議致しました。</p> <p>1. 自己株式の取得を行う理由</p> <p>株式市場の変化に対応し、経営環境の変化を分析し、株主にとって1株当たりの価値を高め、機動的な資本政策を遂行するために自己株式の取得を行うものであります。</p> <p>2. 自己株式の取得に係る事項の内容</p> <p>取得対象株式の種類 : 当社普通株式</p> <p>取得する株式の総数 : 5,000株(上限とする) (発行済み株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.1%)</p> <p>株式の取得価額の総額 : 225百万円(上限とする)</p> <p>自己株式取得期間 : 平成21年11月12日から 平成21年12月21日まで</p> <p>取得の方法 : 信託方式による市場買付</p>

(リース取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月11日

日本ベリサイン株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 金子 能周 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 関口 男也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ベリサイン株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ベリサイン株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

重要な後発事象に記載のとおり、会社は平成21年11月11日開催の取締役会において、自己株式の取得を決議した。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。